

パウロの手紙はどう読者に届いたか

パウロの手紙は誰が書き、運び、読みましたか。

パウロの手紙は、執筆、運搬、説明、受領を助ける協力者に支えられていました。役割が明記される場合も、推測される場合もあります。人と人との伝達として読むと、挨拶、旅行計画、実地的な指示も、手紙の意味の一部になります。

執筆に複数の人が関わることもある

ローマの信徒への手紙16章22節は、手紙を書いた者としてテルティオを挙げます。また、いくつかのパウロ書簡の結びは、本人の手による挨拶に注意を向けます。これらは筆記の助けを利用したことを示しますが、すべての手紙が同じ方法で書かれたとも、助手にどれほど自由があったかとも分かりません。冒頭に協力者の名があることは、各文を同等に共同執筆した証拠ではありません。

聖書の参照箇所: ローマの信徒への手紙 16章22節・コリントの信徒への手紙一 16章21節・ガラテヤの信徒への手紙 6章11節・テサロニケの信徒への手紙二 3章17節

出典: letters

明記された配達と推測を区別する

エフェソの信徒への手紙とコロサイの信徒への手紙で、ティキコは状況を伝えるよう託されています。フェベへの推薦からは、明言こそないものの、ローマの信徒への手紙の運び手だった可能性が高いと考えられます。コロサイの信徒への手紙はオネシモをティキコと共に挙げますが、経路や同一の任務を示しません。運び手の図でもこの違いを保ちましょう。可能性の高い関係を矢印にただけで、確実なものに変えてはいけません。

聖書の参照箇所: エフェソの信徒への手紙 6章21～22節・コロサイの信徒への手紙 4章7～9節・ローマの信徒への手紙 16章1～2節

出典: letters

共同体で聞く知らせ

テサロニケの信徒への手紙一は信徒への朗読を求め、コロサイの信徒への手紙はラオディキアとの手紙の交換を述べます。伝達には共に聞き、具体的な関係の中で応答することが含まれました。現存する文書と確実に同定できない別の手紙にも言及されています。保存された書簡を通して後代のキリスト者も使徒

の教えを聞けますが、責任ある読み方は、最初の受取人と、扱われた状況をなお問い続けます。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 5章27節・コロサイの信徒への手紙 4章16節・コリントの信徒への手紙一 5章9節

出典: letters

出典

- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters・CC BY 4.0・<https://paulineletters.com/ja/explore/resources/letters-and-couriers>